

JA全農ウィークリー

6面

過去最多40校の“高校牛児”が熱き戦い
和牛甲子園総合評価部門の最優秀賞は大垣養老高校(畜産総合対策部)

4-5面

食と農を未来へつなぐ(3) 担当理事インタビュー

齊藤良樹常務理事
(畜産酪農事業担当)



新潟・埼玉・富山のチューリップ産地が合同
フェアでさまざまな品種を展示(2面)



イチゴ主産地9県が開いたテラスモール湘南
店でのフェアの様子(3面)



和牛甲子園総合評価部門の最優秀賞に輝いた大垣養老高校(岐阜県)の生徒と先生(6面)

2 全日本卓球選手権大会に協賛し
選手を応援(広報・調査部)

愛妻の日に向けてチューリップをPR
(新潟県本部)

3 イチゴ主産地9県が合同物販フェア (園芸部)

「愛媛県産河内晩柑&カルピス」を
販売(営業開発部・酪農部)

7 JAズームイン(JA古川・宮城)

8 直営4飲食店舗で「冬の豊橋まるごとフェア」を開催 (フードマーケット事業部)

「全国高校生農業アクション大賞」の研究を放送(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

もぐもぐながさき

**Web
限定**

秋田ノーザンハピネッツのアウェーゲームで「サキホコレ」をPR(秋田県本部)

中国向け「JAPAN SELECTION」シリーズで「広島でこぼん」販売
(JA全農インターナショナル)

熊本県産米「くまさんの輝き」に合う
「究極の一品」フェア（フードマーケット事業部）

[illegible]

<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



全日本卓球選手権大会に協賛し選手を応援

「ニッポンエール」商品やファンのメッセージも展示

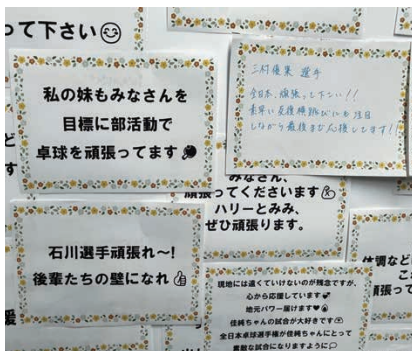
広報・調査部



野口栄理事長から副賞を贈呈

全農は2011年度から同大会に協賛しています。29日の男女シングルス表彰式では、優勝した戸上隼輔選手（明治大）と早田ひな選手（日本生命）に、野口栄理事長が副賞としてJATAウンのギフトカードを贈呈しました。

また、選手への応援メッセージを会場とSNSで募集し、選手エリアで展示しました。全国の卓球ファンから寄せられたメッセージは計2030件。足を止めてメッセージを読む選手の姿が見られました。



選手エリアに応援メッセージを展示

News!



愛妻の日に向けてチューリップをPR

新潟・埼玉・富山3県合同で宣伝

新潟県本部

PR



コーナー



産地合同フェアは、チューリップの切り花の需要底上げを目的とし、また愛妻の日にはチューリップを贈る日として定着を図るため、代表産地3県が協力して企画しました。3年ぶりに産地が参加してのフェアとなりました。

PRをしました。お薦め品種として各県から集まった102品種のチューリップを展示し、咲き方や色のバリエーションの豊富さなどチューリップの魅力を紹介しました。

新潟県本部は埼玉県本部、富山県との3県合同で、1月31日の「愛妻の日」に向けて市場買参人らへチューリップをPRするため1月27日、「愛妻の日」はチューリップを贈ろう産地合同フェアを東京・大田花き市場で開催しました。



イチゴ主産地9県が合同物販フェア

ブランド4種類の食べ比べ詰め合わせを販売

園芸部



テラスモール湘南店でのフェアの様子



今回初めて実施したソラマチ店でのフェアの様子

イチゴの主産地9県(全農本部・県経済連(宮城、茨城、栃木、静岡、愛知、福岡、佐賀、長崎、熊本))で構成する「いちご主産地情報交換会」(事務局・園芸部)は2月4日、澤光青果、東京青果の協力のもと、澤光青果テラスモール湘南店と同ソラマチ店で「2023年いちご主産9県合同物販フェア」を開催しました。

情報交換会は、国産イチゴが潤沢に出回る時期に合わせて合同で販促イベントを実施しています。各県自

慢の「とちおとめ」「とちあいか」「博多あまおう」「もういっこ」「にっこにこベリー」「紅ほっぺ」「いちごさん」「ゆうべに」「ゆめのの」「いばらキッス」「恋みのり」の11種類のうち、4種を組み合わ

せた詰め合わせ「いちご食べ比べアソートケース」を1500円(税別)で販売しました。

テラスモール湘南店、ソラマチ店ともに開店からたくさんのお客さまに来ていただき、予定よりも早く売り切れるほど大好評でした。今回の企画で、国産イチゴのPRと消費拡大につなげることができました。



「愛媛県産河内晩柑&カルピス」を販売

「カルピス」ブランドとのコラボ第2弾、ニッポンエールで応援

営業開発部・酪農部

全農は、アサヒ飲料(株)「カルピス」ブランドとの第2弾コラボレーション商品「愛媛県産河内晩柑&カルピス」を2月21日から全国で販売します。

この商品は、牛乳の余剰問題に対して消費拡大を応援することはもとより、冬を越し春まで樹上で育てるという手間暇をかけた栽培方法で生産している「河内晩柑」の知名度向上を図り、生果の販売強化にもつなげることを目的に開発しました。

この商品は、全農グループ供給の国産乳原料および「河内晩柑」の果汁を使用した「カルピス」です。「河内晩柑」は日本のかんきつ類の中で約1%しか生産されない希少な果実で、豊かな香りと果肉由来の爽やかな味わいが特長です。「カルピス」ならではの甘ずっぱさと「河内晩柑」の爽やかで上品な味わいが楽しめます。



「愛媛県産河内晩柑&カルピス」172.8円(税込み)
「カルピス」の甘ずっぱさと愛媛県産「河内晩柑」の爽やかで上品な味わいが特長

※「カルピス」はアサヒ飲料(株)の登録商標です。

食と農を

未来へつなぐ

3

全農事業担当理事インタビュー

齊藤良樹常務理事（畜産酪農事業担当）

令和4年度の取り組みと5年度に向けての戦略について、畜産販売事業・畜産生産事業・酪農事業を担当する齊藤良樹常務理事に聞きました。

【広報・調査部】

さまざまな事象があった激動の年でした。あらためて、令和4年度はどのような年でしたか。

まずは鳥インフルエンザの発生です（5年2月10日時点で76事例、約1478万羽が殺処分）。多くの鶏が殺処分され、過去に例を見ないスピードと規模で発生しています。徹底した防疫対策だけで耐えうるのか、これからも考え続けていかなければならないと思っています。

一方、酪農は配合飼料に加え輸入粗飼料も高騰しており、厳しい経営状況となっています。酪農は乳業メーカーとの交渉で年間の乳価が決まるため、そこから飼料代などの経費を引くとお

およその収入を見通すことができ、市場相場に左右される他の畜種より安定した経営を営めることが特徴でした。ところが、乳業メーカーとの値上げ交渉で妥結するまでには一定の時間を要するため、昨今の飼料などの経費急騰をただちに乳価に反映することが難しく、依然として非常に厳しい状況が続いています。

— そのような厳しい事業環境の中で4年度は主にどのようなことに取り組みましたか。

飼料価格の高騰と安定基金制度

配合飼料価格は4年7—9月期に



過去最高となりました。畜産経営に与える影響は大きく、配合飼料安定基金の補てんや国の緊急対策の発動が過去にない水準で実施され、補てん財源の確保が最大の課題となりました。そこで、全農は異常基金財源の追加積み立てと通常基金財源の積み立て・借り入れなどを実施し、生産者の経営や資金繰り支援を行う立場を明確にしました。

酪農の理解醸成と牛乳・乳製品の消費拡大活動

商品開発では、牛乳を50%以上使用した「日本の酪農を応援」シリーズ第3弾となる「抹茶ミルク」やカップ乳飲料「シリーズ」農協ミルク、他企業と連携して「国産ミルク&カルピス」「ニッポンエールメロン&ミルク」なども開発し、牛

乳の消費拡大に取り組みました。

また、主な理解醸成活動として、生産者と消費者をリアルタイムでつなぐ「オンライン牧場体験」や、全農直営飲食店舗で牛乳やスキムミルク（脱脂粉乳）をサービスするなど、幅広く展開しました。併せて、SNS（交流サイト）の活用など消費喚起にも取り組みました。

— 脱脂粉乳も過去最大の在庫を抱えていると言われていますが。

コロナ禍で在庫が積み上がりましたが、国や乳業、組織、団体などが連携し、ここに至るよう減少傾向となり、昨年12月末時点での推定在庫が約8万トになりました。全農は在庫消化促進策として脱脂粉乳の代用乳（飼料）などへの利用を検討し、2年度以降、輸入脱脂粉乳から国産脱脂粉乳への切り替えに取り組んできました。3月中には100%国産脱脂粉乳を使った代用乳を製造するようになります。脱脂粉乳の新たな出口対策ができるのも生販両面の機能をもった全農の強みと言えます。

サステナビリティへの取り組み

持続可能な畜産酪農事業を目指し、4年度から重要課題を整理してきました。まず、地球温暖化対策として、農

研機構と連携し牛のゲップによるメタン発生軽減対策に取り組んでいます。耕畜連携では今年2月に鹿児島県と宮城県の間で堆肥ペレットと稲わらの広域流通が開始されました。今後、持続的な取り組みにするため、物流の効率化などにも取り組めます。全農は農水省の広域流通への運賃補助事業の実施主体となり、取り組み全体をサポートしていきます。

また、子実とうもろこしの生産について、宮城県のJ A 古川管内で実証試験が実施されています。全農はJ A 全農北日本くみあい飼料(株)で飼料原料として全量使用していく予定です。課題



第40回全農酪農経営体験発表会の発表者ら

はありますが、一つ一つ克服しながら拡大していきたくと考えています。

なお、次年度には畜産総合対策部に「畜産サステナビリティ推進室」を立ち上げ、さらに取り組みをすすめます。

——今年度は全共の開催年にもあたりました。それに合わせたイベントも多い一年でしたね。

次世代担い手育成の取り組み

全農は、担い手が減っていく中で、次世代育成にも力を入れています。

「和牛のオリンピック」といわれる全国和牛能力共進会が4年10月に鹿児島県で開催され、来場者は延べ30万8000人と大いに盛り上がりしました。全農は会場で全農グループの取り組みなどを生産者や学生、一般消費者らに直接アピールしました。

また、全農が主催している「高校生牛児」たちの大会「第6回和牛甲子園」(5年1月開催)は過去最高の出場校数、出品頭数となり、年々拡大しています(次ページ参照)。

酪農では4年11月に第40回全農酪農経営体験発表会を開催し、6人の酪農家に自らの経営を発表いただきました。併催した酪農の夢コンクール表彰式では、発表会に参加した酪農家と夢

コンクールに参加した学生4人との座談会も開催し、酪農の未来を担う学生に向けて、酪農家がアドバイスとエールを送りました。

——昨年10月にJ A 全農くみあい飼料ホールディングス(株)が設立されました。その狙いは？

組織統合などによる事業競争力の強化の取り組み

J A 全農くみあい飼料ホールディングス(株)は、J A 全農北日本くみあい飼料(株)、J A 東日本くみあい飼料(株)、J A 西日本くみあい飼料(株)、ジェイエイ北九州くみあい飼料(株)を完全子会社とする持ち株会社です。これまでは地域別飼料会社でしたが、今後は全国という視野で地域の意見を反映できる体制づくりをしていかなければならないと考えています。4社の合併により事業運営の効率化や間接経費の削減などを実現し競争力を高めなければなりません。また、製造技術・営業ノウハウの高位平準化、専門人材の採用・育成などに取り組み、より一層生産者の事業を支援していきます。そして3年以内には持ち株会社を含めた5社の合併を目指しています。

また、同年6月に協同乳業(株)が全農

のグループ会社となりました。協同乳業を中核とする農系乳業で連携し、牛乳などの供給体制の整備をすすめ、農協牛乳や地域に根ざした牛乳の販売力強化に取り組んでいます。農系総合乳業である雪印メグミルク(株)とも連携し、それぞれが農系乳業として飲用向け市場の維持・拡大などを通じ、酪農家の手取り向上に貢献できる事業を目指していきます。

——最後に、まだまだ厳しい環境が懸念される5年度に向けた事業全体の方針を教えてください。

中期計画の2年度目ということで、中期計画で掲げた課題に引き続き、しっかりと取り組んでいきます。とにかく何が起るか予測不能な環境の中で生産者が経営意欲を失い、酪農が、特に酪農で続出している状況です。そのような中でわれわれはJ A グループの一員として、生産者の生産基盤をしっかりと支える仕組みづくりをしていきたいと考えています。「生産者なくして事業なし」です。短期的ではなく中長期的な視点を持って、次世代育成にも力を入れていきます。

フルバージョンは
webサイトへ



過去最多40校の高校生牛児が熱き戦い

第6回和牛甲子園 総合評価部門 最優秀賞は岐阜県立大垣養老高校



総合評価部門の最優秀賞に輝いた大垣養老高校の生徒と先生



第6回和牛甲子園に出場した高校牛児の皆さん

第6回和牛甲子園受賞校

総合評価部門

褒賞	高校名
最優秀賞	岐阜県立大垣養老高等学校【初優勝】
取組評価部門	
褒賞	高校名
最優秀賞	鹿児島県立市来農業高等学校
優秀賞	北海道倶知安農業高等学校 広島県立西条農業高等学校
優良賞	栃木県立栃木農業高等学校 神奈川県立中央農業高等学校 京都府立農芸高等学校
審査委員特別賞	鹿児島県立鹿屋農業高等学校
高校牛児特別賞	愛知県立渥美農業高等学校

枝肉評価部門

褒賞	高校名
最優秀賞	(出品番号13) 栃木県立矢板高等学校
優秀賞	(出品番号19) 岐阜県立大垣養老高等学校 (出品番号56) 鹿児島県立加世田常潤高等学校 (出品番号7) 福島県立磐城農業高等学校
優良賞	(出品番号22) 岐阜県立飛騨高山高等学校 (出品番号79) 島根県立出雲農林高等学校 (出品番号24) 愛知県立渥美農業高等学校
審査委員特別賞	

全農は、1月19、20日に第6回和牛甲子園を3年ぶりに
実開催しました(オンライン参加とのハイブリッド開催)。総
合評価部門の最優秀賞には、岐阜県立大垣養老高校が初の
受賞に輝きました。

【畜産総合対策部】

和牛を飼育する全国の高
校生、高校牛児たちが、
日々の飼育管理の取り組み
や育てた牛の肉質を競う大
会には、5校の初参加を含

む過去最多となる23道府県
40校が出場し、55頭の和牛
が出品されました。
和牛甲子園は(一)将来の
担い手への支援・就農意欲の

向上(2)将来の担い手の
ネットワーク創出・飼育技術
の向上——を目的とし、
日々の飼育管理について発表
する「取組評価部門」と、育
てた牛の肉質を競う「枝肉
評価部門」があり、それぞ
れの部門と合計した総合評価
で競います。

取組評価部門は、光合成
細菌を活用した床替え回
数の削減やこうじの給餌に
よる内臓廃棄率低減を発
表した鹿児島県立市来農
芸高校が最優秀賞を受賞
しました。枝肉評価部門は、
圧倒的な肉量感、かつバラ
ンスの取れた枝肉で、一般的
な共励会でも入賞に値する
と審査委員から評価され
た栃木県立矢板高校が最
優秀賞を受賞しました。

総合評価部門では、取組
評価で「岐阜県の優良雌牛

の系統で最優秀を!!」を
テーマに、5カ年計画の集大
成を発表し、枝肉評価では
ロースの形が良く、バラの厚
みも充実しており、脂肪交
雑がしっかりと入った枝肉で
優秀賞を獲得した岐阜県
立大垣養老高校が最優秀
賞を受賞しました。

受賞インタビューでは「ま
さか総合優勝を取れるとは
思っていなかった。牛の日常
管理や取組評価の発表練習
など、放課後学校に残って毎
日頑張ったのでうれしい。今
回までの出品牛のデータを
活用し、来年も賞を取れる
ように頑張りたい」と今回の
喜びと次回への抱負を語り
ました。

大会を通じて参加校同
士の交流機会や参加校の地
元での応援が広がっているこ
とに加え、大会の記事を読
んで高校牛児になりたいと
農業高校の門をたく生徒
が出ているなど、大会の目的
が徐々に浸透しています。こ
れからも、全農は全国で頑
張る高校生牛児を応援して
いきます。



生産者ら約100人が参加した播種実演会



6月にJAが実施した現地巡回指導会

JA古川は、宮城県の西北部に位置し世界農業遺産に認定された広大で肥沃な平野「大崎耕土」が広がる地域です。全国的に有名な「サニシキ」「ひとめぼれ」の誕生の地として水稻を中心に、県内一の生産量を誇るナスをはじめ、ネギ、シュンギクなどの園芸品目やブラ

水田転作で大豆拡大 輪作での技術確立へ

2022年からは、転作物物として子実とうもろこしの栽培に着手しました。米価下落に伴い転作面積の拡大が必要となる中、大豆の作付け拡大を基本に、輪作

で大豆の増収が期待できることや、管理に手間がかからないこと、大豆の作業機械を利用できることなどの理由から、子実とうもろこしの作付け推進を始めました。JA職員が大豆生産組織や認定農業者を中心に作付け推進を行った結果、作付面積は都府県最大規模の91・4

JA全農と業務委託契約を締結し、3年間にわたる栽培試験で、大豆との輪作体系による生産技術の確立や栽培特性などを検証しています。22年には3回の現地見学会を開き、播種や収穫作業の実演、生育状況の確認などを実施し、全国のJA関係者や行政等関係職員が参加しました。

堆肥活用で耕畜連携 23年度は150

家畜の飼料に使われる子実とうもろこしは、高騰する輸入飼料の代替としても注目されており、堆肥の活用で耕畜連携による循環型農業の実現も可能となります。収穫した子実とうもろこしは、JAの乾燥設備で乾燥・調製し、JA全農北日

本くみあい飼料(株)に出荷しました。栽培初年度は、7月の豪雨で一部に被害があり、収量にも影響が出ました。23年度は作付面積150を指し、関係機関と課題を検討しながら、輪作体系を確立して大豆の増収や労力削減を図り、国産産物を通じて農業経営の安定につなげていく計画です。



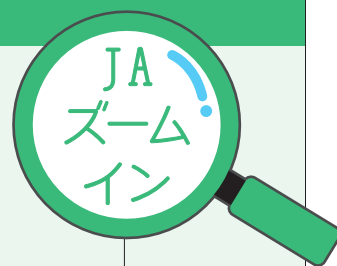
8月に実施した現地見学会には全国から関係者約70人が参加



9月の子実とうもろこし収穫作業



収穫したとうもろこしの子実



子実とうもろこし栽培を本格化 全農と連携、都府県最大の91・4

JA古川 (宮城県)



概要

(2022年3月31日現在)

正組合員数	8127人
准組合員数	2512人
職員数	208人
販売品取扱高	51億6千万円
購買品取扱高	24億9千万円
貯金残高	324億4千万円
長期共済保有高	1987億6千万円
主な農畜産物	米、大豆、仙台牛、古川なす

彩り鮮やかな冬の味覚をおすそわけ

直営4飲食店舗で「冬の豊橋まるごとフェア」を開催

全農は2月13~28日、東京都と大阪府、名古屋市の直営飲食店舗(4店舗)で、愛知県豊橋市・JA豊橋との共同企画「冬の豊橋まるごとフェア」を開催しています。【フードマーケット事業部】

全国トップクラスの農業生産額を誇る同市は、穏やかな気候に恵まれ露地野菜・果樹・園芸作物など多種多様な農業が盛んな園芸産地です。

今回のフェアでは、糖度8度以上のミニトマト

「美」や宝石のように鮮やかな色彩のミニトマト「あまえぎみ」をはじめ、肉厚で甘さが自慢の「スティックサラダ(スナッペンどう)」、生産量日本一の「ラディッシュ」、爽やかな味と香りのイチゴ「紅ほっぺ」などを使用した限定メニューを提供します。

また、豊橋産食材はJA豊橋が運営する通販サイト「トッピーの郷」でも購入できます。



みのる食堂三越銀座店での定食総菜

【メニュー提供概要】

期間 2023年2月13日(月)~28日(火)
※2月25日は東京・銀座三越9階 銀座テラスで豊橋の野菜・果物や加工品を紹介・販売します(数量限定)。

実施店舗

みのりカフェ三越銀座店
みのる食堂三越銀座店
みのるダイニング名古屋店
和牛とごはん焼肉じゅん 枚方市役所前店

「トッピーの郷」はこちら / 店舗情報は こちら



TOKYO FM/JFN系列38局ネットで放送中のラジオ番組

東京FM



番組概要

「あぐりずむ ~未来へつなぐ あぐりパワー~」
(TOKYO FM/JFN38局)
毎週木曜日15:50~16:00
(放送時間はFM局で異なります)
農業に携わる人たちの想いや、今後の未来にフォーカスします。

「全国高校生農業アクション大賞」の研究を放送

全農が提供する東京FMのラジオ番組「あぐりずむ~未来へつなぐあぐりパワー~」2月2日の放送は、「全国高校生農業アクション大賞」の大賞に選ばれた山形県立村山産業高等学校 農業科学部の研究を紹介しました。【広報・調査部】

放送では、3年の月日をかけて同大賞に選ばれた同校の廣瀬僚太先生がパーソナリティーの川瀬良子さんと当時の様子などを振り返りました。

研究テーマは「サトイモの超促成栽培」。芋煮の需要があることから、収穫期ではない8月の収穫を目指して研究し、廣瀬先生は「生徒たちも真夏の作業を頑張り、活動したことが評価され素直に喜んでいる」と伝えました。川瀬さんも「地域の食

文化を高校生たちが想っていることはうれしいですね」と生徒たちの想いに感心していました。

廣瀬先生は「山形県では若い世代が農業にチャレンジする機会が増えていると感じているので、本校の卒業生を中心にこの研究結果が広がることを期待します」と力強く語りました。



収録の様子(川瀬さんと廣瀬先生)



詳細は番組ホームページから

JA全農の産地直送通販サイト



JAタウン ショップ紹介



もぐもぐながさき

長崎県産のイチゴ「ゆめのか」と「恋みのり」を同時に楽しめる食べ比べセットです。

「ゆめのか」は、大粒で甘味と酸味のバランスが良く、程よい硬さの果実はジューシーで果汁がたっぷり。色鮮やかな赤色で見た目も美しいイチゴです。「恋みのり」は2017年に誕生した新品種。大玉でふっくらとした円すい形の果実は、酸味が少なく香り豊かで上品な味わいです。それぞれの品種を2パックずつお届けします。



長崎いちご食べ比べセット(ゆめのか&恋みのり各1箱)(大玉約250g×4P)【JA島原雲仙】……3600円(税込み)

ご注文はこちら



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com